

平成30年度 府立菟道高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（実施段階）

H31.3.20

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>1) 集団の中で切磋琢磨し人格の形成を図る。</p> <p>2) 個人の尊厳を重んじ、知・徳・体の調和のとれた発達を図る。</p> <p>3) 地域に根ざした一層豊かな学校文化、「菟道文化」の創造を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の学力、体力、社会的能力、自己管理能力を総合的に向上させるため、授業、行事、部活動等を通して丁寧かつ粘り強い指導を行った。学校評価アンケート結果では本校の教育活動に対する生徒、保護者の満足度は高く、成果はあったと考える。授業改善に向けた取組は継続する必要がある。 ○ 「チーム菟道」については概念が抽象的で、生徒に十分に理解させることができなかった。具体的な場面で帰属意識を持たせる指導、また仲間を思いやる心や仲間同士で切磋琢磨することの大切さについて理解させる指導が必要である。 ○ 公開授業等の授業交流を通して教科指導力の向上を図った。主体的・対話的で深い学びや探究型学習等の研究については十分に組み組めたとは言えず、早急に進めていかなくてはならない。 ○ 部活動の加入率が80%を越え、多くの生徒が積極的に活動し、アーチェリー一部、放送部が全国大会へ出場するなど成果をあげ、学校全体の活性化につながった。しかし一方で、学習との両立に悩む生徒や、部活動について行けず退部する生徒も見られた。今後も担任・教科担当・部活動顧問が連携し、同じ方向性で丁寧な指導をしていく必要がある。 ○ 特色化事業(国際交流・宇治田楽・論文コンテスト)については、教職員の熱心な指導のもと、生徒も真摯に、かつ意欲的に取り組み、年々レベルは上がってきている。第1学年、担当分掌、教科等の連携を図り、課題となっていた取り組み時間の確保や担当者間でのワークシェアをすることができた。 ○ 心に悩みを抱える生徒や特別支援を要する生徒への指導については、昨年度も特別支援教育コーディネーター・養護教諭・スクールカウンセラー・担任を中心に、地域センター等とも連携し、適切に行うことができた。対象となる生徒が年々増加しており、全教職員が対応できるよう知識と技能の更なるスキルアップのため研修会を持つことができた。 ○ 広報活動については、学校公開・説明会、中学校との連携、ホームページの充実等、本校の教育活動を積極的に外部に発信することができた。また、学校公開や説明会の参加者は目標値を超え、志願者の増加につながった。本校の魅力発信という点では、在籍生徒の教育活動や学校生活の様子を発信することで成果があったが、課題も残り、改善が急務である。 ○ 3年生の希望進路実現という点では、課題を残す結果となった。ここ数年、国公立大学への合格者数が減り続け、今年度も減少した。また私立大学への合格者も昨年より減少した。国公立大学を目指し本校へ入学する生徒は多く、その合格者数は、本校の教育活動の成果を計る一つのバロメーターになっている。減少の原因を分析し、今年度の指導に活かしていかななくてはならない。 ○ 家庭学習については、3年生で増加したが、1年生で質・量ともに不足した。1年次の学習に対する姿勢づくりが大切であり、質の高い授業を通して継続的な指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 人生100年時代を迎え、10年後はもとより生涯にわたって力強く生きていける人間となるよう、「知」「徳」「体」のバランスがとれた生徒の育成を図る。 ○ 質の高い授業をはじめとする全ての教育活動を通して、組織的で計画性のある、丁寧で粘り強い指導を行い、学力向上と進路希望の実現を目指す。 ○ 「チーム菟道」という言葉に象徴される、他人を思いやる心を持ち、社会や集団内で各自の役割をしっかりと果たし、互いに切磋琢磨する生徒を育む。 ○ 学習と両立できる、はじめある部活動の実践により、生徒の個性伸張と学校の活性化を目指し、高い目標を掲げて挑戦する、チャレンジ精神旺盛な生徒及び集団を育成する。 ○ 指導要領並びに大学入試改革に対応し、主体的・対話的で深い学び、探究型学習及び高大接続システムについての研究を継続して進める。 ○ 読書活動や話し合いの活動を充実させ、「言葉の力」の育成を図る。 ○ 種々の課題を抱える生徒に対し、手厚い指導を行い、安心して学校生活を送れるような指導体制を整える。 ○ 特色化事業(国際交流・伝統文化事業・グローバルネットワーク校等)を効果的に活用し、国際社会で活躍できる力の基礎を育む。 ○ 開かれた学校づくりを進め、本校の魅力や特色について情報発信の方法や内容を工夫し地域や中学生の理解と信頼を得る。

※「言葉の力」…情報を正確に理解した上で、相手の表現や意図や背景を推論し、根拠を挙げて自分の意見を述べ、話し合っで与えられた課題を解決できる力

評価領域 (分掌領域)	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
			項目	総合	
教務部	<ul style="list-style-type: none"> ・質の高い授業が行えるよう教科指導力の向上を図り、生徒の希望進路の実現を目指す。 ・新学習指導要領や大学入試改革について理解を深め、授業改善につなげる。 ・特色化事業を活用し、国際社会で活躍できる力の基礎を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の授業交流（公開授業）を更に充実させ、教科指導力の向上を図る。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業交流は春・秋を通して目標の1人2回に何とか到達することができた。秋期は各自のテーマを設定し、新学習指導要領や高大接続に対応できるように工夫した。 ・教科主任会を通じて新学習指導要領に関する資料を提供したが、全体としての研修会は残念ながら実施できなかった。 ・年2回の学習時間調査を通して、生徒の学習状況が把握できる資料を提供した。ここ数年、学習時間が減少している現状に具体的な手立てを考えていく必要がある。 ・学力補充を実施し、定期的にサポートできる体制を整えた。実施科目が多く、日程調整が大変であった。 ・グローバルネットワーク京都の取組としてのポスターセッションは、学年や教科と連携してすすめることができた。また、英語でのプレゼンテーションは例年以上に力を入れ、入選は逃したものの、一定の成果を上げた。また、短期留学では昨年を上回る6名が留学した。
		<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領や大学入試改革について理解を深めるため、研修会や日々の授業実践を振り返る機会を年1回以上設け、各自の授業改善につなげる。 	C		
		<ul style="list-style-type: none"> ・学習時間調査を年2回実施し、生徒の実態を把握すると共に、面談等に使える資料を提供する。 	B		
		<ul style="list-style-type: none"> ・学力に課題を抱える生徒に対して、年4回の学力補充を行い、学習のサポートができる体制を整える。それにより教科と担任の連携を強める。 	B		
		<ul style="list-style-type: none"> ・府の事業である留学案内や特色化事業（グローバルネットワーク校など）を通して、国際交流に対する興味・関心を高め、国際社会で活躍できる力の基礎を育む。 	B		
生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・自他の生命を大切にす豊かな心の育成を図る。 ・安心できる学習環境及び互いに支え合う心豊かな生徒集団作りを目指す。 ・基本的生活習慣を確立させるとともに規範意識を高める。 ・学校行事、生徒会活動、部活動、ボランティア活動等に積極的に参加させることで菟道高校生であることの自覚と責任を高めるとともに、生徒の自己有用感を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学期に2回全教職員の協力の下、下校時の交通安全指導を行ったり、PTAと連携して年3回登下校時の交通安全指導を行うなどして、登下校時の生徒の安全を図る。 	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ○登下校に係る近隣からの苦情が多く、クラス掲示や担任からの呼びかけ等を行うとともに、問題箇所を立てて指導した。特に自転車運転については課題が多く、3学期からは毎日バス停前に生徒指導部が立って指導し、一定の成果が見られた。 ○校門では教員から積極的に挨拶しているが、生徒から自発的に挨拶できるまでには至っていない。学校全体での取り組みが必要と思われる。 ○3回のいじめアンケートを実施するとともに、適宜いじめ対策委員会を開催し、いじめの認知、対応等について協議した。 ○普段の観察や定期考査時のチェック等を利用し、頭髪・身だしなみに係る指導を担当と密に連携を取りながら実施した。大きな乱れはなく、概ね落ち着いた学習環境を維持できている。ただ、女子の色つきリップへの対応については課題がある。
		<ul style="list-style-type: none"> ・機会あるごとに挨拶の大切さを説くとともに、校門指導時や校内で教員が率先して挨拶するなどして自然に挨拶ができる生徒を育てる。 ・学年部や各教科と連携して安心できる学習環境作りを組織的に行う。また、いじめのない温かな生徒集団の形成を目指す。 	B		
		<ul style="list-style-type: none"> ・学年部、他分掌、各教科と密に連携をとり、学校をあげて組織的に遅刻指導や制服の着こなしを含む身だしなみの指導を行う。 	B		
		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケートの遅刻指導や服装・頭髪指導など校則に係る指導は適切に行われているとする項目の肯定的な回答70%以上を目指す。また、校門遅刻者については年間延べ800人（1日当たり4.5人 雨天時・交通機関延滞を除く）を目指す。 	B		
		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会、風紀委員会等を通してルールやマナーの意味を生徒自身に考えさせ、自ら守る意識を高めさせる。携帯電話等に係る指導については年間50件以下を目標とする。 ・生徒アンケートの授業中は落ち着いて勉強できる雰囲気があるとする項目の肯定的な回答80%以上を目指す。 ・学年、教科等と連携してSNSに係る諸問題を理解させるとともに 	C B		

生徒指導部 (続き)		<p>SNSを適切に利用するよう指導する。</p> <p>・学校行事、生徒会活動、ボランティア活動に積極的に参加させたり、主権者教育などを通して、周囲と協力して課題を達成できる生徒の育成を図る。</p> <p>・生徒アンケートの学校行事は活性化しているとする項目の肯定的な回答70%以上、ホームルーム活動や生徒会活動は充実しているとする項目の肯定的な回答60%以上を目指す。</p> <p>・学期に1回部活動の部長会議を開き、部長には部活動だけでなく、菟道高校の代表者としての責任と自覚を持たせる。また、部長を中心に自治的に部活動運営ができるようにする。</p>	B B B	<p>○年間（1月まで）の遅刻者数は1904人（1日当たり10.6人）となり、471人増加した（昨年度は一日当たり8.14人）。指導にもかかわらず遅延するバスに乗り続ける生徒が一定人数いることが一因である。2学期に登校に関するアンケートを取り、それに基づきPTAから宇治市にバスのダイヤへの要望を行い、来年度4月から一部改正される成果があったが、問題のバスは改善されなかった。時間を守る意識の高揚を図ることはもちろんであるが、本校の立地条件を考えると、校時の見直しも必要ではないかと考える。</p> <p>○携帯電話等に係る指導は延べ70件あった。（昨年度71件）そのうち、授業中等に鳴動するも申し出がなかった事象が9件（昨年度5件）あった。ルールを守るとは自分たちの学習環境を守ることであることを生徒自らに考えさせ、気づかせる取り組みを推進したい。</p> <p>○外部講師を招いたSNSに係る講演会を各学年で実施することができた。しかし、個人情報や他人の写真を安易にSNSに掲載するなど不適切に利用する生徒は多く、指導の継続、強化が必要である。</p> <p>○生徒総会を実施することができた。来年度は質の向上を図り、生徒の自治意識を高めたい。</p> <p>○菟道祭をはじめとする学校行事では、生徒が主体的に活動し、落ち着いた雰囲気の下、実施することができた。さらに学年部との協力を密にし、組織的な指導体制を確立したい。</p> <p>○今年度菟道祭では1年生の小劇場を視聴覚で実施するなどさまざまな改善をすることができた。</p> <p>○クラブ長会議では、副部長、マネージャーも参加させることで幹部の結束を高め、さらなる自治活動を促すことができた。</p>
進路指導部	<p>学年団・各分掌・教科と協力して、生徒の希望進路の実現に向けて組織的にサポートするとともに、人生における自己実現力、幅広い人間性を身につける。</p>	<p>・「進路シラバス」に沿ってLHR、模擬試験、先輩と語る会など実施し、進路について深く考えさせる。進路学習を通して高い目的意識を持たせるとともに、目的に向けて自律的・計画的に努力する力を育成し、確実に希望進路を実現できるよう指導・サポートする。</p> <p>・「キャリア教育」、「人権学習」を年間計画に基づいて実施し、自己実現能力と幅広い人間性を育む。</p>	B B	<p>教科や他の分掌と連携して、「進路シラバス」に沿って、模擬試験や進路LHRなどの進路行事を行うことができた。来年度は新入試の準備を本格的に進めると共に、さらに効率的かつ効果的に指導できる体制を構築していきたい。</p> <p>「キャリア教育」、「人権学習」についても、年間計画に基づいて実施し、効果的な指導が行えた。</p>

図書部	<ul style="list-style-type: none"> ・教科や他分掌との連携、委員会活動の活発化、また図書館刊行物の発行により読書指導を進める中で、図書館の積極的利用を勧め、貸出冊数の増加を図る。 ・視聴覚機器の整理と刷新・有効利用を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員推薦図書を紹介冊子「菟道の泉」を年1回、図書館だより「あじろぎ」を月1回発行し、読書をする事の意義や楽しさを発信し、教科や分掌と連携して積極的に読書指導をすすめる。 ・図書委員会の活動を活発に行い、「ライブラリーニュース」の発行を通じて読書の啓発を行う。文化祭やブックフェアなどのイベントを通して図書館に足を運び、本に親しむ機会を提供する。 ・年間1人あたりの貸出冊数4冊を目標に、昨年度以上の貸出冊数の増加を図る。 ・ベストリーダー証発行（累計20冊以上貸出し）が80人以上（昨年度78名）となるよう、読書指導をすすめる。 ・授業や行事がさらに充実するように視聴覚機器の整備と刷新・充実を図る。 	B A A B B	B	
保健部	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の健康管理に努め、心身ともに健康で安全に生き抜くたくましい身体と豊かな心を養う。 ・環境に対する関心を高め学校環境の美化保全のため主体的に実践できる態度の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心身に課題を抱え不適応をおこしている生徒の早期発見に努め、支援できる教育相談の体制作りを行う。 ・感染症サーベイランスの入力により、得た情報をもとに感染症予防をすすめる。 ・委員会活動を各学期2回以上行い、生徒が主体的に立案・運営できる体制作りを行う。 ・新規導入された自動販売機・売店の弁当のゴミ分別について、2回以上の啓発活動を行い、校内のゴミの分別やゴミの減量化に対する意識を高める。 	B B B B	B	
総務企画部	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校や地域社会に対して、学校への理解と信頼を深めるために広報活動全般の推進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会、学校公開、部活動体験をはじめ、中学校訪問や塾の説明会、さらにUJI学などの運営・調整を通して、中学生や地域の人たちが本校への理解を深められる取り組みをする。 ・学校説明会・学校公開等の年間参加者が1500人を越える広報活動を行い、説明会参加者アンケートの満足度95%以上を目指す。 ・学校案内、ポスター、ホームページ（HP）、PTAメール等の広報媒体の作成、管理、更新を行い、広報活動全般の推進を図る。 ・学校案内の冊子やHPの内容の充実、ポスターを3種類以上作成、公式HPを週3回以上更新、PTAメールを週1回以上配信する。 	B B	B	

・読書活動の推進に向け、従来より発行している「菟道の泉」「あじろぎ」に加えて、菟道祭やライブラリーコンサートなど生徒参加型のイベントを行った。貸出冊数は、1月末時点で1人あたり6冊で昨年より2冊増であった。エクセレントリーダーは今年度は0名だが、ベストリーダー（累計20冊以上貸出し）は82人であった。今年は各教科と連携して授業での図書館活用を増やせた。引き続き教科との連携を進め「言葉の力」の育成に取り組みたい。

・授業や行事での視聴覚機器の使用が増えているが、機材の整備が追いついていない。引き続き、活用しやすい環境作りを目指す。

・様々な課題を抱える生徒に対し、情報交換を密に行い個々に応じた対応を相談・検討しながら行えた。今後も支援に対する工夫や方策に関して教職員の理解を深められるよう努めたい。

・感染症サーベイランス（学校等欠席者・感染症情報システム）は、一定システム化できた。

・委員会活動を年間10回行い、健康や美化に関する情報発信を紙面や放送を介して行った。換気の実践及び啓発活動は、風邪防止のために一定の効果があった。ゴミの分別については、更に工夫が必要である。

・学校説明会や学校公開を通して、中学生・保護者に本校の魅力をアピールするための広報活動を行った。4回の説明会の参加者は1778名、満足度は平均で93.8%であった。

・夏休みに初めて部活動体験を行った。課題もあったが各部活動の協力で一定の成果を上げた。

・ネットワーク環境で前半に支障が生じたが関係機関に連絡を取って対応した。後半に事務室と連携しHPを一新して新たな広報活動の基盤を作った。

第1学年部	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣を確立させ、集団生活における規範意識の育成を図る。 ・進路希望の実現に向けて、基礎学力の定着と進路学習の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・初期指導期間に校則遵守の指導、高校生としての生活・授業規律を徹底させる。 ・授業を中心とした学習スタイルを定着させ、部活動との両立を実現させる。 ・進路学習を通して自己理解を深めるとともに、3年後を見据えた進路計画を立てさせる。 ・手帳を活用することで、時間管理による学習習慣を確立させ、自ら学び、考え、行動できる自己管理能力を身に付けさせる。 	B B B B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの生徒は授業や部活動に積極的に取り組み、規律ある学校生活を送ることができている。 ・進路HRや『夢ナビライブ』への参加など、自己のあり方・生き方について考えさせる取組を効果的に実践することができた。 ・手帳とポートフォリオノートを活用することで、自己管理能力を育成するとともに主体的な学習への契機とすることができた。
第2学年部	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次に築いた菟道高校生としての生活習慣を確固たるものとし、学校生活を充実したものにさせる。 ・自分の目指すべき将来像を描かせ、進路目標の実現に向けて計画的に学習する習慣を身につけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学期毎1回以上の面談を行い、生徒自身に現状を分析させる機会をもたせる。 ・保健部と生徒情報を共有し、連携を取りながら迅速に対応する。 ・進路学習を充実させ、学びたいことを具体的にイメージにさせる機会をもたせるとともに進学先の進路研究を主体的に行わせる。 ・学習の質と量を充実させるためにも、面談等を通じて、個々の生徒に合った学習スタイルを確立させる。 ・学習記録・生活記録をつけることで時間管理を意識させ、一日3時間の家庭学習を目指す。 	B B B B C	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学習、生活、意欲等、困難さを抱える生徒に対して粘り強く対応できた。 ・特別な指導、手立てが必要な生徒に対して、保健部と連携を密に、迅速に取ることで、生徒の状況把握、対応ができた。 ・多くの生徒において、学習意欲の向上が見られた中、落ち着きがない生徒、意識の低い生徒も目立ち始めた。 ・大学訪問や新たな進路講演会を企画し、進路学習を充実させた。進路指導部による「先輩と語る会」も生徒の進路に対する意識を高めた。
第3学年部	<ul style="list-style-type: none"> ・多様化・複雑化する社会に適応し、未来を切り開くために学校生活を通して自ら判断し、行動できる集団を育成する ・進路希望実現のため、最後まで粘り、やり遂げる学習集団を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・服装指導・遅刻指導などの生活指導を充実させ、高校生という立場だけでなく、社会人として行動できるよう指導する。 ・生徒面談を行い、自分自身と向き合わせる機会を持たせ、自らの課題を解決するためのプロセスを模索させる。 ・進路指導部と連携し、進路に関わる行事を充実させることで生徒の進路研究を深化させる。 <p>学習の核となる授業に積極的に参加させる指導を行う。また、課外授業や自習室などを活用させて、生徒一人一人の学習活動を充実させる。</p>	B B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・頭髪・遅刻指導はしっかりと出来た。 ・土曜講座の開講、休日の自習室の開室、放課後の補習など、生徒が学校で自主的に学ぶ環境を整えることが出来た。しかし、学校体制として支援していくことが今後の課題である。 ・進路指導部と連携をとりながら進路行事を行うことが出来た。進路検討会はポイントを絞って、生徒一人一人について話し合うことが出来、充実したものであった。
事務部	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の経営目標を達成するための基盤として、生徒が安心して高校生活を送れるように、就学支援金制度、奨学の給付金に関する事務や希望進路の実現のために日本学生支援機構の予約奨学金制度等の周知を図り、適切に執り行う。 ・効率的な文書事務の徹底を図り、個人情報の 	<ul style="list-style-type: none"> ・就学支援金、奨学の給付金事務において、制度や手続きを適正に運用し、担任教員との連携を通じて、生徒・保護者からの信頼に応える。 ・生徒の進路希望の実現を見据え、日本学生支援機構の予約奨学金制度等の周知を図るため、3年生を対象とした説明会を開催する。 <p>・文書を適切に起案し、関係分掌等に回議され、決裁・施行・廃棄す</p>	B B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・日本学生支援機構については、アドバイザーによる説明会を計画したことにより、多くの生徒が申請を行うことができた。 ・各種制度や手続きについては、適正に伝え、丁寧な対応を心掛ける事

事務部 (続き)	管理を徹底する。 ・学習環境充実のため、施設設備等の整備を進め、安全管理を徹底する。	る取扱を徹底する。また、個人情報の管理を適切に行う。 ・定期的な校内巡視を行い、施設設備の点検を実施し、不良箇所等の早期発見に努める。老朽化した箇所については、計画的に修理を行う。	B A	ができた。 ・天候等による被害や老朽化に伴う施設設備の修繕箇所が増えたが、関係課と調整しながら対応を進めることができた。 ・学校行事等は、関係分掌と連携を図りながら、運営に関わることができた。
	・開かれた学校づくりを進め、本校の魅力を積極的に発信し、教育活動の活性化につなげるため、担当教員との連携を密にし、学校PR用印刷物を適切な時期に効果的に作成する等、特色化事業の実施や広報活動の充実に携わる。	・学校説明会及び学校公開に関して、準備から当日までの運営に積極的に関わる。 ・学校PR用印刷物の作成等、学校の特色化や広報活動に関し、適正な契約事務・会計処理を行う。	A	

平成30年度 府立菟道高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン） 教科領域

評価領域 (教科領域)	重点目標	具体的方策	評価		進捗状況（成果と課題）
			項目	総合	
国語科	<ul style="list-style-type: none"> 語の意味や文章の構造など、言葉の働きや役割、きまりについて理解させる。 情報を多面的・多角的に精査し構造化する力を育成する。 他者との協働につながる、言葉を通じて伝えあう力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 単語や文法事項の定着のため、小テストや課題を継続的に課していくとともに、文章構造を意識した読解をさせていく。 学習した内容を補足する資料や別の意見に触れさせうえて、自らの考えを深めさせる。 話し合いの場や、記述する場を設け、自分の意志や主張を伝えさせる。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 小テストや課題テストを通して、基礎的な知識の定着を図った。 ICTを活用して、学習内容に付随する資料に触れさせる機会を設けた。 話し合いの場や記述の場については十分な時間を取ることができなかった。
			B		
			C		
地歴・公民	<ul style="list-style-type: none"> 個々の希望進路の実現と新入試や多様な入試に対応できるよう、質の高い授業を展開することを目指し組織的に取り組む。 基礎・基本的な知識の定着を図り、積極的に学ぶ姿勢を身に付けさせ、教科に対し興味・関心を持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 小教科の担当者同士の打ち合わせや意見交換を密にし、生徒の現状や課題などの把握に努め、適切な授業の展開に取り組む。 授業力向上のため、研究授業や授業公開を積極的に活用するとともに、新入試に向けた研修に努める。（年間参観回数1人4回以上） 計画的に定期試験や小テストを実施するとともに、課題やレポートを課すことで、学習習慣や基礎学力の定着を図る。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業公開などを活用し、授業改善に向け、教員間の意見交流を行った。今後、更なる現状把握に努め、より生徒の興味・関心に繋がる質の高い授業の展開に取り組む必要がある。 新入試に向けて十分な研修が実施できなかった。 小教科で授業について課題や改善点を見だし、小テストやレポートを課し、基礎学力の定着を図った。
			B		
			A		
数学科	3年間を見通した学習指導を行い、一人一人に希望進路の実現につながる学力をつけさせる。	<ul style="list-style-type: none"> より質の高い授業をするように努めるとともに、実力を育成するための十分な演習時間と質の確保に努める。 家庭学習の意識を高めるために、各時の課題を明らかにすることで、生徒が明確な目標を持って学習に取り組み、自ら学力を伸ばす生徒を育てる。 2年人文の生徒に対し、学びやすい環境を整えることで、個々の能力を伸ばす指導を研究する。 1年生が受験する新テストに向けて対応できる指導法の研究をすす 	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中で演習時間と質の確保に努めた。 自ら学力を伸ばさせるための定期考査前の課題の出し方について、議論し、意見交流を行った。 2年人文の生徒の希望に応じた授業内容を展開したが、十分に個々の能力を伸ばすまでには至らなかった。
			B		
			B		
			B		

数学科 (続き)		める。	B		た。 ・新テストに対応した問題を定期考査で出題したが、研究まではすすんでいない。
理科	自然科学に対する生徒の興味・関心・意欲を高める。 進路選択に対応できる学力を育成する。	・基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的なものの見方や考え方を身に付けさせる。授業に演示実験や視聴覚教材を多く取り入れる。	B	B	・問題演習ノートの提出を定期考査前に課し、授業内容の定着を図ることができた。 ・実験や実習については、ほぼ年度当初の予定通りに実施し、レポートの作成の仕方についても指導し、提出させた。 ・高大連携事業を通して生徒の興味、関心を引き出し、能動的に学ぶ姿勢を高めさせることができた。 ・小テストと家庭学習を関連づけて基本事項の定着を深めさせる指導ができたが、今後さらなる学力の定着を図る具体的方策を模索していく。
		・実験・実習を年間3回以上実施し、レポートの作成方法を指導して全員に提出させる。また高大連携事業などにおけるプレゼンテーションなどを通して、能動的に学ぶ姿勢を養う。	A		
		・授業の順序や内容を適切に組み立て、効果的な指導を行う。学習内容の定着のため可能な限り問題演習をさせ、演習ノートを年間5回程度提出させる。	B		
		・小テストや課題テスト等を適宜実施し、基本事項の定着を図る。授業と家庭学習の関連付けを明確にし、学力補充や進学補習にも積極的に取り組ませ、進路実現のために必要な学力を身に付けさせる。	B		
保健体育科	・運動実践や体育理論を通じて、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、運動することの意義を理解させる。 ・自己に応じた体力の向上を図り、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する能力を付けさせる。 ・健康や安全について理解を深め、生涯を通じて自らの健康を管理し改善していく能力を付けさせる。	・限られた運動施設・設備の中で、可能な限り生徒の興味関心のある運動を選択させ意欲的に取り組むようにさせる。 ・選択制授業を通じて、自ら計画を立案し、運動やスポーツに取り組むことができる基盤を作り上げる。 ・体育理論での講義を通して、運動やスポーツに対する文化や身体の構造を理解させる。 ・事故や怪我がないように、用具の使用法や安全に留意させる。	B	B	・種目選択については、ほぼ希望する種目を選択させることができ、意欲的に活動させられた。 ・3年生の選択授業では、練習計画の指導を繰り返し行い、良好な内容を立案させることができた。 ・保健では、個人や班で調べた内容を発表し、また収録を作成することで理解を深めさせることができた。 ・台風によるフェンスの倒壊により種目や授業内容が大幅に制限された。早急な修繕が必要である。
		・健康を管理し、改善していくための、情報を提供する「発表」とその情報をまとめる「収録作り」を実践させる。	B		
芸術科	・基礎的・基本的な技術の定着を図り、意欲的に活動する姿勢を育成する。更に、定着した技術を基に独自に応用する能力を身に付けさせる。 ・それらの活動を通じて、自国・他国の文化芸術を尊重する人材を育てる。	・意欲や創造性を引き出せる指導法の研究と教材の精選をすすめ、生徒の創造力を向上させる授業を行う。	B	B	・指導法の研究や教材の精選のため研修や学会等に積極的に参加できた。それにより、生徒が自ら疑問を持ち探求する授業を実施した。 ・2月に芸術祭を実施した。この1年間より良い合唱や演奏、作品が発表できるよう指導した結果、アンケ
		・芸術祭を中心に発表させることにより、自己の作品・演奏に責任を持たせるとともに、鑑賞指導の充実を図る。	B		

芸術科 (続き)					ートからも概ね好評を得た。
英語科	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での学習習慣を身に付けさせ、基礎学力の定着を図る。さらに、それぞれの進路希望に対応できる実践力を養う。 ・英語学習への意欲関心を高め、自主的・主体的に学習に取り組む姿勢を身に付けさせる。 ・知識・技能の習得にとどまらず、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成し、思考力・判断力・表現力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいを理解させた上で、小テストや各種テスト、課題を計画的に設定し、学習習慣と基礎的学力の定着を図る。 ・G-TECや英検、各種模擬試験を通して、定期的に英語運用能力を確認するとともに大学入試の外部試験導入に対応できる力を養う。 ・生徒の興味・関心・能力に応じた教材を選択し、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4技能を総合的に育成する言語活動を授業に取り入れる。 ・外国人指導助手との意思疎通を十分に図り、言語活動を効果的に取り入れる。 	B B B B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の実情に応じ、小テストや課題を計画的に設定したことにより、学習習慣の定着を促すことにつながった。 ・G-TECや英検、各種模擬試験を定期的に利用したが、対策についてはさらなる工夫が必要であった。 ・適切な教材を選択し、授業内に言語活動を盛り込むことができたが、「話すこと」「書くこと」については、課題が残った。 ・外国人指導助手の意見を取り入れ、授業内に言語活動を効果的に行うとともに、異文化理解につなげた。
家庭科	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの家庭生活の充実向上を目指し、何ができるかを主体的に考え、学んだことを活用できる力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な知識と技術を習得させるために、実践的、体験的な学習を積極的に取り入れる。特に少子化の進展に対応して、子どもを理解し、子どもと関わるコミュニケーション能力の育成を図るために、保育園実習、グループディスカッション等の学習を積極的に取り入れる。 ・外部講師による講演を通して、我々を取り巻く社会状況を把握し、自らの生活課題の解決方法を探求し、問題を解決する力を育てる。 ・体験学習ごとにレポート提出を課すことにより、学んだこと感じたことを自分の言葉で表現する力を養う。 	B B B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・グループディスカッションや各分野の実習を通して、家庭生活における様々な課題について、実践的、体験的に学ぶことができた。 ・社会人講師による講演会により、専門家から最新の情報を入手することができた。学んだことを活用できる賢い生活者に育てていきたい。
情報科	<ul style="list-style-type: none"> ・受信した情報を正確に理解する能力の育成及び、情報発信者の意図を読み取る能力を育成し、自分の考えが正確に発信する能力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時代の流れに応じた授業内容となるよう、時事の話題を随時授業に取り入れ、メディアリテラシーや情報モラル・マナーを普段の生活で実践できる力を身に付けさせる。 ・情報を主体的に捉え、随時扱えるようにするため、実践的な実習課題を年間通して3テーマ以上、総授業時数の2分の1を実習に割り当てる。 	B B	B	<ul style="list-style-type: none"> 1・2学期は週2回の授業の中で、座学、実習をそれぞれ1時間ずつ実施した。座学では情報モラルをはじめ、社会生活の中で、情報がどのように活かされているかを考えさせた。実習では、Word、Excelの基本操作の習得に努めさせた。3学期はPowerPointの基本操作の習得に努め、調べ学習を行い、各人が発表できる場を設けた。

<p>学校関係者 評価委員会 による評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校をあげて魅力ある学校づくりをしていることがよくわかった。 ・生徒の進路実現のために粘り強い指導をしていただいていることに感謝する。 ・学校の教育方針として「10年後の満足」があるが、年齢の近い先輩と語る会の実施は、生徒にとっては新たな気づきの機会となる。また、少人数のグループ形式で行うことにより質問がしやすくなると思う。継続して、どのような効果があるのかを調査して欲しい。 ・中学生に対して、本校生が「語る会」を実施できれば、中学生には在校生の姿や学校生活が理解できるのではないかな。 ・空き教室等の施設設備を多くの生徒が茶道体験等ができるように有効利用はできないか検討してはどうか。 ・お茶文化を広く生徒に体験させる方法として、地域の公共施設内の茶室等を活用できるので、検討してはどうか。また、地域研究の一環として地元企業を活用することもできる。 ・学校評価アンケートの数項目について、学年により結果が異なるが、どのように分析しているのか。また、改善に向けての取組もお願いしたい。 ・学校評価アンケートの結果については、生徒に対する教職員の対応の仕方により大きく変わるものであると思われるので、生徒の意見に耳を傾け生徒に寄り添った対応をお願いしたい。 ・学校評価アンケートの「ホームルーム活動・生徒会活動」についての評価が他と比較して低いが、生徒が自主性を尊重し自ら取り組める方策を検討して欲しい。また、転学をした生徒へのアンケート調査が行えると多様な意見が聞けるのではないかな。 ・ICT導入、乾式トイレ設置等により学習環境が整えられることで学習効果が上がると考える。
----------------------------------	---

<p>次年度に 向けた改善の 方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の教育理念の一つである「文武両道」を追求し、部活動の更なる活性化と授業改善に取り組むとともに生徒の学力を向上させ確実に進路保障をしていく。 ・大人にとっての「チーム菟道」とは、本校関係者だけでなく地域の人々からも支援をいただくことであり、地元の人的、文化的財産を活用した取り組みを継続して行っていく。また、校内組織が有機的に連携し、全職員が最大限の教育効果を上げる意識を持ち、職務に取り組む。 ・ICT化等、学習環境の整備を行い、生徒による探究的な学習を進めていく。 ・高校時代の学びが大学進学に繋がるように、授業力の向上を目指していく。 ・広報全般について、本校生が主体となり本校の魅力を最大限に表現する内容とし、生徒募集につなげる。 ・昨年度、通学途上の安心安全のため携帯電話、スマートフォンの校内持ち込みを許可したが、使用については規程に従うように指導していく。また、SNS等の使用についても、リテラシー力を向上させ、上手に活用できる生徒を育成する。 ・校内の施設設備については、可能な範囲で更新をし学習環境を整えていく。
--------------------------------	---